Safety Report　セーフティルポ 子ども①

指導者から児童への問いかけを交えた対話型の小学校低学年向け交通安全教育プログラム

警察庁の資料によれば、歩行中の交通事故死傷者数（平成25～29年の平均・人口10万人当たり）を年齢別にみると、7歳が全年代で最多となっている。7歳は小学1、2年生にあたる年代だ。そこで、Hondaは幼児向け交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ」の続編となる「小学校低学年歩行編」（下記参照）を昨年完成させた。

危険シーンを提示し、児童になぜ危険なのかを考えてもらう

奈良県大和高田市は今年度から「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」を取り入れ、6月20日、同市立高田小学校の1年生64人を対象に交通安全教室を実施した。指導を担当したのは同市交通指導員の4人。
まず交通指導員が「皆さんは小学校に入る前から交通安全について勉強していますが、どうして勉強をするのだと思いますか」と交通安全を学ぶ目的を引き出すため、児童に問いかける。児童は元気良く手を上げて「自分の命を守るため」「道路は危ないから」と答える。「皆さんの大切な命を守るために、道路を歩く時に守ってほしいことがあります。それを今から一緒に勉強していきます」と交通指導員はアニメーションによる3つの危険シーンを見せた。アニメーションでは「できるニャン」というオリジナルキャラクターを使うなど、児童が楽しく学べるように工夫されている。
最初のシーンは「左右が見えにくい交差点」。下校中の男の子2人がふざけながら歩いていたため、路地から道路に飛び出してしまう。ここで「できるニャン」が登場。「クルマにぶつかりそうになったけど、どうしてそうなったのかにゃ」と問いかけたところで一旦映像が止まる。すると、「右、左を観ていなかったから」「ふざけていたから」といった声が児童から上がった。映像を進めると、「できるニャン」が同じシーンでクルマのドライバーからは男の子2人がどう見えていたのかを示す。ここで映像を止めて、交通指導員が「クルマの運転手さんから男の子は見えにくいので、どうすれば良かったと思いますか」と質問。「右、左を観る」「止まって、クルマがきていないか確かめる」と児童が答える。そして、解説映像を流し、「できるニャン」が「道路ではふざけない」「右側を一列で歩く」「交差点の手前で必ず止まる」「のぞきこみながら右、左、右をしっかり観る、安全なら渡る」と安全な渡り方を説明。この後、「クルマが停まっている時」「信号のある交差点」という2つの危険シーンについても、同様に交通指導員が問いかけながら安全な通行方法を児童に考えてもらった。

児童の考えを引き出しやすい構成になっている

進行を担当した交通指導員の浦西美津子さんは「以前からドライバーから自分たちがどのように見られているかを伝えることは重要だと思っていました。このプログラムはそれをわかりやすく示すことができ、ありがたいと感じています。また、アニメーションも子どもたちの考えを引き出しやすい構成になっています。毎回できるだけ多く、子どもたちの意見を吸い上げるように心がけています」と話す。また、交通指導員の達中明衣さんは「できるニャン」が児童を引きつける上で重要な役割を果たしているという。「関西弁を話すというキャラクター設定で、とても親しみを感じます。昨年度、幼稚園・保育園で『できるニャンと交通安全を学ぶ』（幼児向け）を学んでいるので、子どもたちの印象に残っているのだと思います」。
高田小学校1年生クラス担任の黒石由香里さんは「対話形式で進行していったので、子どもたちも楽しみながら参加していました。また、映像も上からの状況を見せてくれたり、他者の視点からはどのように見えているかを示してくれるので、わかりやすかったと思います」と「小学校低学年歩行編」の効果を語った。

大和高田市の交通指導員が「なぜ交通安全を学ぶか」を児童に問いかける

ポイントとなる場面で映像を止めて、交通指導員が道路に潜む危険を児童に問いかける

危険な理由や安全な歩き方を児童が考え、答える

写真左から、大和高田市交通指導員の小林香菜さん、浦西美津子さん、達中明衣さん、花野絹予さん

交通安全教育プログラム「できるニャンと交通安全を学ぶ 小学校低学年歩行編」

アニメーションを活用した対話型のプログラムで、指導者からの一方的な指導ではなく、児童に「どうして危ないのか」を考えてもらい、気づきを促し、双方向で答えを導き出す点が特徴となっている。「左右が見えにくい交差点」「クルマが停まっている時」「信号のある交差点」の3つの危険シーンがあり、それぞれが以下のような流れとなっている（所要時間：15分程度）。また、アニメーションとリンクした「子どもが自ら考え行動する」道路横断体験プログラムの指導方法も含まれている。

活用を希望される自治体、警察、団体の方は下記にお問い合わせください。
本田技研工業（株）安全運転普及本部 地区普及課
TEL 03-5412-1150

「止まる、観る、待つ」を再認識してもらうための道路横断体験プログラム

危険な場面を提示

同じ場面を上からの視点や他の交通参加者の視点から見せながら、危険である理由を解説

安全のポイントを確認